

甲佐町議会だより



清流

第179号

令和3年(2021)11月15日発行
発行 甲佐町議会
発行責任者 議長 宮川 安明

9月定例会



秋晴れの下
コロナ吹き飛ばす運動会
龍野小学校

令和2年度各会計決算の認定他	②～③
そこが知りたいQ&A	④
一般質問(5人) ここが聞きたい	⑤～⑨
町民の声	⑩

令和3年 第3回(9月)定例会

令和3年第3回定例会は、9月10日に開会し、14日まで5日間の審議を行った。

議案審議においては、令和2年度各会計決算の認定、人事案件、条例案件、過疎地域持続的発展計画、令和3年度各会計補正予算など町長提出の22案件及び議員発議の意見書及び専決事項の指定について慎重に審議し、すべて原案のとおり認定・同意・承認・可決した。

一般質問には5議員が地域振興、農業振興、交通対策、生活対策、災害対策等について活発な議論を展開した。

令和2年度各会計決算額

会計の名称	歳入	歳出	差引額
一般会計	93億2,406万円	88億603万円	5億1,803万円
国民健康保険	15億1,085万円	14億7,408万円	3,677万円
介護保険	16億152万円	15億4,230万円	5,922万円
後期高齢者医療	1億5,933万円	1億5,713万円	220万円
合計	125億9,576万円	119億7,954万円	6億1,622万円

端数処理等により差引及び合計額が合わない場合がある。

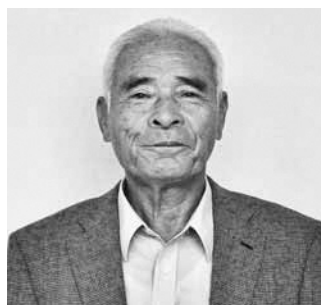
水道事業会計決算額

収益的収入	1億6,840万円	収益的支出	1億5,475万円
資本的収入	2億872万円	資本的支出	2億2,218万円

その他、審議した主要議案等の内容は次のとおり。

人事

固定資産評価審査委員会委員に本田一誠氏を選任



現固定資産評価審査委員会委員の美濃田恵一氏(竜野地区)が令和3年9月30日で任期満了となることから、本田一誠氏(白旗地区)を選任することに同意した。

教育委員会委員の任命

現委員である渡邊眞彰氏(白旗地区)が令和3年10月17日に任期満了となることから、引続き委員として任命することに同意した。

議員発議

専決事項の指定

議会の議決事項である、訴えの提起、和解及び調停に関するもので、100万円以下のもの及び町営住宅等の明渡し請求等に関することについて、町長の専決事項として指定した。

条例

甲佐町債権の管理に関する条例

町税や住宅使用料などの町の債権の徴収に關し、公正かつ効率的な行政運営に資することを目的に、その債権の管理について必要な事項を定めたもの。

予算関係

令和3年度甲佐町一般会計補正予算(第3号)

今回の補正予算は2億7300万7千円を増額し、総額76億2638万6千円となった。主な補正予算は、新型コロナウイルススワッチン接種事業及び災害復旧事業に関する予算。

審議結果一覧

区分	議案名	審議結果
認定第1号	令和2年度甲佐町一般会計歳入歳出決算の認定について	認定 (反対2)
認定第2号	令和2年度甲佐町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定 (反対2)
認定第3号	令和2年度甲佐町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定 (反対2)
認定第4号	令和2年度甲佐町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認定 (反対2)
認定第5号	令和2年度甲佐町水道事業会計決算の認定について	認定
同意第2号	甲佐町固定資産評価審査委員会委員の選任に付き同意を求めることについて	同意
同意第3号	甲佐町教育委員会委員の任命に付き同意を求めることについて	同意
承認第5号	専決処分の報告及び承認について	承認
承認第6号	専決処分の報告及び承認について	承認
承認第7号	専決処分の報告及び承認について	承認
報告第3号	財政健全化判断比率等の報告について	報告
議案第46号	甲佐町過疎地域持続的発展計画について	可決 (反対2)
議案第47号	甲佐町債権の管理に関する条例の制定について	可決
議案第48号	甲佐町税特別措置条例の一部を改正する条例の制定について	可決
議案第49号	甲佐町工場等設置奨励条例の一部を改正する条例の制定について	可決
議案第50号	甲佐町個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定について	可決
議案第51号	甲佐町農地利用最適化推進委員の定数に関する条例の一部を改正する条例の制定について	可決
議案第52号	甲佐町集会所設置条例の一部を改正する条例の制定について	可決
議案第53号	令和3年度甲佐町一般会計補正予算(第3号)	可決
議案第54号	令和3年度甲佐町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	可決
議案第55号	令和3年度甲佐町介護保険特別会計補正予算(第1号)	可決
議案第56号	令和3年度甲佐町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	可決
発議第2号	「コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書」の提出について	可決
発議第3号	専決事項の指定について	可決

9月定例会
質疑から

そこが 知りたい

Q & A

甲佐町交流拠点施設整備の経済効果

Q 交流拠点施設整備後、井戸江峡交流拠点施設には約7000人、古民家交流拠点施設には約3000人の入込み客があったとの報告があったが、当初町が想定していた入込み客数と比較してどうか。また、経済効果は。

A これまでの実績については、町が当初想定していた数字よりも大幅に増大していると考えている。

また、経済効果については一概に判断することは困難だが、それだけ多くの来町者があるっており、宿泊費等も含め十分効果は上がっていると判断している。



イベントで賑わう井戸江峡交流拠点施設

合併処理浄化槽の設置状況

Q 合併処理浄化槽設置事業の令和2年度実績は。また、今後の方針は。

A 令和2年度における合併処理浄化槽設置事業については75基補助を計画していたが、実績は60基であった。

町長マニフェストでは、令和5年度末までに生活排水の処理率を75%まで引き上げたいという目標が掲げられている。令和2年度末の普及率が67.1%であり、今後更なる普及促進を図る必要がある。

令和2年度から補助金を拡充しており、これらについてPRを積極的に行いながら、目標達成に向けて努力していきたい。

シルバー人材センターの運営状況

Q シルバー人材センターの運営状況は。

A シルバー人材センターについては、年度計画に基づき事業を実施され、毎月実績について報告をいただいているが、おおむね計画どおりの事業運営が行われている。

ただし、シルバー人材センターの登録会員数が伸び悩んでいる状況であり、町としても周知活動等を行い、会員数の増、受注作業の増の一助になればと考えている。

湯田川の内水対策

Q 湯田川については、JA甲佐給油所付近が大雨時には越水して、その影響で下流域まで冠水する状況である。今後の改修計画は。

A 湯田川内水対策の調査結果では、下流の河川改修も実施しないとJA甲佐給油所付近の改修だけでは効果がないということであった。

今後の対策案としては、湯田川上流に遊水池を設置することや、大町の樋門に排水機場を設置することなどを考えている。



湯田川の越水により冠水した国道（大字横田）

一般質問



森田 精子 議員

船津地区河川防災ステーションの整備概要は

建設課長 水防活動や緊急復旧活動を行う拠点として整備

志戸岡建設課長

近年各地で発生している豪雨災害を受け国と町が連携し、地域の防災力向上につながる拠点整備を目指し、洪水時の水防活動や緊急復旧活動を行う拠点づくりを進めている。

問 盛土整備に伴い、隣接する住宅地の内水被害が心配されるが、その考えは。

志戸岡建設課長

山側に設置する側溝で山からの水を緑川に排出し、敷地内の水も緑川に排出する。民地との境界には浸透側溝を設置し、浸透

しきれない水はポンプにて排出する。

問 馬門川谷地区、星の川団地周辺、また国の盛土計画を含め、調査の進捗状況は。

志戸岡建設課長

令和3年9月より国土強靱化5か年計画による緊急自然災害防止対策事業債を利用し、馬門川の内水対策整備メニューの検討を行っている。

現在、河道の状況を把握するため測量を実施している。状況の把握後、内水被害の対策案を検討し、今年度中には対策の工法を選定していきたいと考えている。

船津地区河川防災ステーションの進捗状況は、令和3年度より用地調査、用地協議、補償に着手をされている。用地協議の進捗状況によるが、国の方では最初に山側の山水の処理として、排水路整備から着手の予定で、令和5年度の整備完了予定である。

問 管理棟の利活用について一部を観光や食をアピールする等で、貸出しする場として利活用する考えはできないのか。

荒田地域振興課長

管理棟の一部を飲食ができるカフェ等が併設できれば、総合運動公園の利用者と併せて交流人口の増につながり、観光情報や飲食情報、物産品の紹介をすることで、町の観光施設や地域資源、飲食店等回遊してもらい、移住定住にもつながればと考えている。

交通弱者に対する交通手段のその後の検討は

問 交通弱者対策は、障がい者及び高齢者等の交通弱者が、目的地まで移動する際の可動性の確保が重要な問題である。

昨年からの地域コミュニティの復興に向けた基礎調査業務のその後課題や、課題の改善解決に向けた対応策の検討はされたのか。

古閑企画課長

内容の分析等を行い、町全体として高齢者の7割が地域公共交通を利用していないこと、バス停までのアクセスが不便な地域があること、全体的に地域公共交通の依存度が低いというような結果が得られた。現在、利用者の実態調査として聞き取り調査を行っている。課題の改善・対応については、方策を現在検討している。

奥名町長

地域公共交通、町営バスの運行状況でも、様々な課題と問題があるのかと聞いている。色んな課題等を整理しながら、今後地域公共交通の在り方を考えていくことになると思う。デマンド方式とかその他色んな方法が考えられる。

方針がある程度定まった段階で、今後の交通弱者の支援をどうするかという事を併せて考えていった方が、より現実的な対応になると考えている。

古閑企画課長

交通空白地域や免許返納者等、高齢者また交通弱者にとって地域公共交通は、必要不可欠な交通手段だと思う。免許証を自主返納した高齢者に対し、公共交通機関の割引、また無



こちらから全質問を視聴いただけます。

小中学校のトイレに 生理用品の配備を

学校教育課長 他町の取り組みを見ながら検討したい



井 芹 しま子 議員

問 長びくコロナ禍の中、学生らの団体の調査で、経済的理由で5人に1人が生理用品の入手に苦労したことがあるという結果が報道され、大きな衝撃を与えた。こうした影響は、自治体が学校等へのトイレに生理用品の配備をするという対策へと対応が全国で広がっている。

吉岡学校教育課長 他町の取り組みを見ながら、関係者の中で検証し、協議を行っていききたい。

問 10歳未満や10代、20代と児童や若い人のコロナ感染が問題となっている。国は、子どもの感染拡大と早期発見の為、全国の学校や幼稚園などに80万回分の検査キットを配布しているが、十分な検査数ではない。町としても、学校や保育園、介護施設などへの検査キット

配備に対する財政支援として、地域女性活躍推進交付金を、また、小中学校への生理用品の配備については、地域こどもの未来交付金の活用を求めている。町においても、子どもたちへ等しく健康で衛生的な生活を補償する為に、小中学校への生理用品の配備をすべきではないか。

奥名町長 ワクチン接種率を上げることの方が対策としての効果は大きい。10月10日の一応の最終に向けて頑張りたい。

自宅療養者への町としての支援は

奥名町長 感染された方々の住所氏名は公表されていない。

問 今、コロナ感染者の自宅療養者の急増が大変な問題となっている。感染者も急増する中で、国は、重症者と重症リスクの高い人以外は原則自宅療養という方針を打ち出し、入院したくてもできず、自宅療養中に亡くなるという事例が相次いでいる。対応している保健所の体制も非常に厳しい状況になっている。自宅療養者が万が一にも亡くなるということはあってならない。自宅療養者の命を守る為にも、住所や氏名など個人情報も町と共有して支援にあたるべきではないか。

船津地区防災ステーションについて

問 国交省は災害の緊急対応を迅速に行うための拠点として、河川防災ステーションの整備事業を全国で進めている。

総合運動公園管理棟と水防センターの併用について

問 国交省の資料を見ると、町が建設中の総合運動公園管理棟が、国が計画している水防活動の拠点としての水防センターと併用とあるが、議会での管理棟工事請負契約の議案審議の際は一言も説明がなかったが、説明する必要はなかったのか。

志戸岡建設課長

奥名町長 エリア一帯の中での防災ステーションとしての機能役割を論点において判断してほしい。議会軽視ではない。



こちらから全質問を視聴いただけます。

一般質問



甲斐高士 議員

将来の土地開発を見据えた 国土利用計画の策定を

町長 実効性のある国土利用計画策定を目指す

問 今年度、国土利用計画を策定予定であるが、これまでの進捗状況は。
また、具体的な計画の内容は。

古閑企画課長

これまで庁内協議による検討を重ね、8月に委託業者を決定した。今後具体的な計画策定業務に入っていくところである。

計画の内容としては、町全体の土地利用構想を検討するもので、計画策定により、町の基本構想の施策を地図に落としとして提供すること

で、公共投資の計画性、効率性の向上を図るものである。

本町における土地利用に関する指針となるべき計画策定を目指す。

問 町では従来から企業誘致の受け皿となる工業団地の整備が課題となつているが、今回の国土利用計画の中で、工業用地をどの場所に位置づけるのかといった具体的な方針は。

古閑企画課長

近隣における高速交通のインフラ整備による地理的優位性等も考慮しながら計画策定を進めていく必要があると考えている。また、本町では平成28年3月に工業団地適地調査を実施しており、その調査結果も踏まえつつ、豊かな自然環境や安全安心、快適な生活環境との調和も図りながら検討していく必要があると考えている。

で、商店街を中心とする中心市街地の位置づけは。

古閑企画課長

総合計画においても魅力ある商店街づくりを掲げているところである。

今回の国土利用計画の中で、中心市街地は商業エリアとして選定することになると考える。

問 このことに関しては、商店街にお住まいの方々と共有して進めていくべきだと考える。今後の連携体制はどのように図っていく予定なのか。

古閑企画課長

中心市街地の活性化に向けては、町行政だけでなく、地元商店街や商工会などと連携しながら行っていく必要があると考えている。

甲佐総合運動公園をはじめ井戸江峡交流拠点施設、やな場など様々な町の観光地に多くの来町者が訪れることが想定される。

その来町者を、商店街を中心とする中心市街地に回遊させる仕組み作りと併せて、新たな観光施設の開発も今回の国土利用計画の作成にあたっては視野に入れて検討していくべきと考える。

町長の考えは。

奥名町長

現在は、津志田河川自然公園にも多くのキャンプ利用者がおり、今後は各観光施設の魅力を発信しながら、ポイントと線を線でつないでいくような施策が必要と考える。

新たな視点では、陣ノ内城跡が国指定になったことで、本町にとつての大きな観光資源となることから、その利活用も検討していきたい。



新たな観光資源として期待される「国指定史跡陣ノ内城跡」

その他、住宅開発地の方向性について、開発行為等指導要綱及び開発行為等支援要綱の改正の必要性についても質問を行った。



こちらから全質問を視聴いただけます。

水害対策費の予算増額を

町長 国土強靱化5カ年計画の事業を活用しながら整備していく



荒田 博 議員

志戸岡建設課長
梅雨時期や長雨の時は緑川水位の情報、ダムの放流情報、気象予報などを注意しながら

問 梅雨や線状降水帯など水害に対して事前に準備、対策費は。

志戸岡建設課長
道路冠水箇所7か所、土砂流出箇所4か所、路肩決壊が1か所、河川の護岸決壊が4か所出ている。

問 8月の線状降水帯による長雨で被害はあったのか。

準備はしている。
対策費としては、道路の維持管理50万、河川の浚せつ工事費400万、重機借り上げ料100万などを予算として計上している。
災害が起きた時は予備費あたりを流用し対応している。

問 毎年水害被害が起きている。対策費の増額は検討できないか。

奥名町長
国土強靱化5か年計画で町単独では取組にくい事業もこの計画を活用し整備できないかと考えている。
また、国、県と関係団体に内水対策の協議会を設置した。

この中で町が考えている対策事業の効果や国、県としての考え方などアドバイスをいただきながら事業を進めていきたい。

中山間地域総合整備事業について

問 熊本地震で採択が延期され、コロナ禍での予算が先延ばしされないか懸念されるが中山間整備事業の進捗は。

井上農政課長

本事業は、甲佐町、御船町、益城町の3町で広域連携型として県営事業で実施される農業基盤整備事業である。

本町の事業数は、ため池の整備事業5工区、ほ場整備事業3工区、営農飲雑用水事業1工区の合計9工区で10億6800万円の事業費で、令和2年から令和

8年までの7年間の予定となっている。

国からの補助金交付状況によっては延長される場合もある。

進捗状況として令和2年度は、営農飲雑用水事業は地質調査及び一部実施設計が行われている。

ほ場整備事業は、中横田工区で換地計画及び実施計画に着手している。

ため池整備事業は、世持上ため池の地質調査及び実施設計を行っている。

令和3年度は、営農飲雑用水事業では実施設計、用地買収及び水源側の工事に一部着手

される予定となっている。

ほ場整備事業は、中横田工区では引続き換地計画作成と実施設計を行い、県道改良の関係で遅れている上揚工区も本年度着手される予定となっている。
ため池整備事業では世持ため池の用地買収と工事着手が予定されている。



こちらから全質問を視聴いただけます。



増水時の竜野川



中横田工区

一般質問



佐野安春 議員

上豊内資源保全会へ 指導援助を

農政課長 総会開催を提言している

問 上豊内資源保全会の多面的機能支払交付金返還問題の発端は、資源保全会役員が正規の活動を長年行ってこなかったことにあると考える。役員は心から反省し、新たな活動に足を踏み出さなければならぬと考えるが、今のところそうならないと思う。

ても再開するにしても、構成員を集めた総会を開催し、そのもとで決定されなければならぬと考える。

井上農政課長

上豊内資源保全会はこの問題が発生したため、令和2年度から活動を中止している。

しかし、総会が開催されていないので、役員の辞任、組織の廃止等については議決をされていないので、現在そのままの状態となっている。

そのため町としても、今後上豊内地域全体の活動のためにも、組織を解散するのか、今回の問題を踏まえ、現在の組織で事業内容を見直し、新たにスタートするのか、早急に総会を開催し決定して頂き

通学路安全対策の 進ちよく状況は

たいということを提言している。

問 平成30年度の通学路安全対策一覧表には、問題箇所が67か所もあり、通学路の危険要注箇所の内容が深刻な状況にあると思う。

歩道がない、白線が消えている、転落の恐れ、外灯がなく下校時に危険、横断が困難で危険など、子ども達は命がけで登下校しなければならぬ実態があると

令和2年度も同じ調査があつているが、それには危険箇所91か所、完了済みが31か所となっている。やはり危険箇所が残されている、危険箇所を少なくする。理想的にはゼロにする取組が必要と思うが。

吉岡学校教育課長

通学路の安全確保については、交通事故防止に関する方策を検討し、継続的に対策を講

じる必要があると考えている。

指摘のあつた令和2年度では、91か所危険箇所があるが、整備完了済みと一部完了を含めた施工中、調査中などが、60か所ほどある。あと30数か所が未整備となつている。計画的、継続的に整備を進めていきたいと考えている。



県道三本松甲佐線

防犯灯整備状況は

問 通学路安全対策一覧表の中学校通学路の中に、防犯灯が必要な箇所が6か所ある。

やな場から井戸江峡までは防犯灯がなく下校時に危険ということだが、防犯灯設置計画外となつている。どうしてなのか。

佐々木くらし安全推進室長

今年新たに防犯灯整備方針を策定し3路線延べ3.4キロ、39基を目標に防犯灯の設置を進めている。

中学校通学路の6か所は対応済み。県道で道路が狭くて設置できない部分、その他の理由で設置が困難な場所以外は設置が終了している。



こちらから全質問を視聴いただけます。

町民の声

「甲佐の自然を生かすために」

急増するアウトドア志向

津志田区 一圓 仁

ここ3、4年乙女河原の様子も急変、土日ともなるアウトドアを楽しむため町外から数百人の人々が乙女河原へと足を運ばれている。真冬でも、宿泊者が70組を超え9月の連休の際は100組を超えた。利用者が増えれば当然問題も発生する。ゴミや利用者間のトラブル、火災の発生だ。

そう言った問題を解決できないかと、昨年から消防団による巡回を開始。マイクによる注意喚起や直接利用者への声掛け、個人的に毎日利用者数を集計し状況把握とマナー向上に力を入れている。

とは言え、乙女河原は通常のキャンプ場と違い常駐管理人がいない公園である為、目が行き届かない。利用者からは「町は草刈しないの?」「こんなに素晴らしい無料の場所、外に無いのもったいない」「有料化して整備しては?」などの意見が多数ある。そこで、利用者が利用者の目の前で利用者のマナーを向上させる活動ができないかと考え「乙女河原クリーンキャンプ」と題し、SNSや消防巡回時に呼びかけ、行政だけでは行き届かない草刈りや、清掃を利用者の方々や年4回実施、その効果がこの場所を気持ちよく使いたいと日頃から帰り際にゴミ拾いや、草刈り実施される方が増え、利用者は何倍にもなったが園内はきれいに保てるようになってきた。

私は、地元で遊んだ思い出があるから郷土愛が生まれると思います。この素晴らしい、一級河川緑川を抱える町として自然を生かす為、精進していきたいと思っています。皆さんのご協力お待ちしております。

県町村議会議長会議員研修会にリモート参加

10月6日、本

町生涯学習センター研修室において、熊本県町村議会議長会主催の議員研修会に、リモートで参加した。



研修会では、流通経済大学教授でジャーナリストの龍崎孝氏が講師として招かれ、「日本の政治経済の展望」という演題に基づき講演が行われた。

講演の中では、9月29日に投票が行われた自民党総裁選挙の結果考察や、岸田政権下での国政の展望などについて述べられた。

我々地方政治は、国政の動向に大きく左右されるものがあり、今回の研修を参考にしながら今後行われる衆議院議員選挙にも注視していきたい。

町民の皆様への議会傍聴をお待ちしています。気軽にお越しください。

※令和3年第4回(12月)定例会は、12月10日開会の予定です。

編集後記

9月議会は、令和2年度の決算の議会でもあります。

昨年は、多くの予算が新型コロナウイルス対策へも投入されました。

これまで、多くの皆様のご努力により、感染拡大にも収束の兆しが見えてきたようにも感じておりますが、これから寒い時期を迎えるにあたり、感染再拡大を起ささないためにも、今一度、力を合わせ、この苦難を克服して参りましょう。

(鳴瀬 美善)

議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 甲斐 高士 |
| 副委員長 | 宮本 修治 |
| 委員 | 佐野 安春 |
| 委員 | 森田 精子 |
| 委員 | 鳴瀬 美善 |
| 委員 | 田中 孝義 |
| 委員 | 甲斐 良二 |